



創部初の関西リーグ5連覇を達成した天理大ラグビー部（11月29日、京都市の宝が池球技場で）

大学日本一を目指す天理大学ラグビー部は今季、創部初回大会の関西リーグ5連覇を達成し、7大会連続29回目の大学選抜手権出場を決めた。12月19日、東大阪市の花園ラグビー場で行われた第57回「全国大学ラグビー選手権大会」の準々決勝にシードで登場した同部は、強豪・流通経済大学を相手に78・17と大勝。1月2日に東京・秩父宮ラグビー場で行われる準決勝へ3年連続の進出を決めた。

の、展開ラグビーで相手を圧倒。前後半ともに6トライずつを決め、78・17で大勝。『関西王者』の貴禄を見せつけ、3年連続の準決勝進出を決めた。

応援してくださる皆様へ感謝

大学選手権の準々決勝では、一手一つに躍動する選手たちの姿を目の当たりにし、大きな壁を乗り越え、よくぞここまでと感動しました。

とで、強引な突破だけでなく、周りを生かすプレーも身に付けた。日本に帰国すると、副将に抜擢された。

**勝つことで恩返しを**

9月10日、陽性者の入院や陰性者の経過観察、関連施設の消毒などの対策

ファイタ選手は「オンラインでのトレーニングは、練習再開へ向けての体力維持の意味もあるが、こうした期間にコミュニケーションを取ることが大切だと思った。画面を通じて、みんなの表情を見ることができてうれしかった」と述懐する。

を経て活動を再開した同部。小松節夫監督（57歳）は「多くの方々に応援していただいて活動できていることを、スタッフ・部員ともども、あらためて実感した。活動再開にこぎ着けられたのは、大学はもとより、教会本部や天理市などから献身的な協力を頂いたこと

トンカ生まれのフィフティ選手は、身長187<sup>センチ</sup>・体重105<sup>キログラム</sup>の体格ながら50<sup>センチ</sup>の6・2秒の快足。持ち前の突破力で相手ディフェンスラインを破るプレーを得意とする。そんな超大学級の彼は昨年2月、世界最高峰リーグの一つ「スーパーラグビー」に参戦中の日本チーム「サンウルブズ」のメンバーに選出され、現役大学生で唯一、全試合スタメン出場。国際舞台で経験を積んだこ

おかけ」と感謝の言葉を繰り返す。活動再開後は強化練習の傍ら、大理警察署による特殊詐欺防止ボスター作製の協力や、並河健・天理市長らと共に市内の側溝の泥上げ作業などの、地域貢献活動にも積極的に加わる。また、週に一度、早朝から市内のゴミ拾いを続けている。なかには、決められた日以外に自ら進んで清掃活動をする部員も少なくない。小松監督は

関西大学Aリーグで5連覇を達成し、全国大学選手権では3年連続ベスト4進出を決めた。

2020年3月以降、多くのスポーツ大会が中止に追い込まれた。ラグビー界も例外ではなく、トップリーグは中断され、関西大学リーグ春季大会も開催が見送られた。

寮は閉鎖され、陽性者は病院や宿泊施設で隔離となり、陰性者も実家に帰るなどチームはバラバラになった。松岡大和キャプテン（4年）も、神戸市の実家へ戻った。活力あふれるプレーが売りの

ラグビージャーナリスト  
村上晃一

という感じです」

摂南大(64・0)、近畿大(50・0)、関西学院大(43・17)に快勝したが、チーム力は思うように上がらなかった。

一年生からレギュラーとしてチームを引っ張ってきたS.H.藤原

短い期間にさまざまな選手が巨信をつけながら関西大学Aリーグの5連覇は達成された。松岡キャプテンは力強くコメントした。「めっちゃくちゃ嬉しいんです。多くの皆さんの応援があって、ここのま

天理大はキックオフ直後から怒涛の攻撃を見せた。

藤原、松永のHB団が右に左にパスを投げ分け、学生屈指の突破力を誇るフイフイタが力強い走りでも何でもディフェンスラインを破る。WTBマナセ・ハビリ（1

【むらかみ・こういち】1965年、京都市生まれ。大阪体育大学時代のポジションはCTB／FB。卒業後、ベースボール・マガジン社へ。『ラグビーマガジン』編集部で同誌編集長を務める。退社後、フリーのラグビージャーナリストとして活動。著書に『リルのゆく道』（道友社）や『ラグビーが教えてくれること』（あかね書房）など。

いかと語る。

11月7日、関西リーグが開幕した。同部は3戦全勝で29日の優勝決定戦に臨むと、名門・同志社大学相手に54-21の大差で勝利し、創部初のリーグ5連覇を達成した。

松岡主将はこの4年間、全国大会で悔しい思いをしてきた。先輩たちが積み上げてきた思いと、支えてくださった多くの方々への思いを背負い、選手権に勝って恩返しをしたい」と力強く話す。

小松監督は「関西代表として恥ずかしくないプレーをして、日本一を目指したい」と静かに闘志を燃やす。

悲願の日本一は手の届くところに

悲願の日本一へ、天理ラグビーを貫き、仲間と自分を信じきれたかどうか。初の頂点は手の届くところにある。